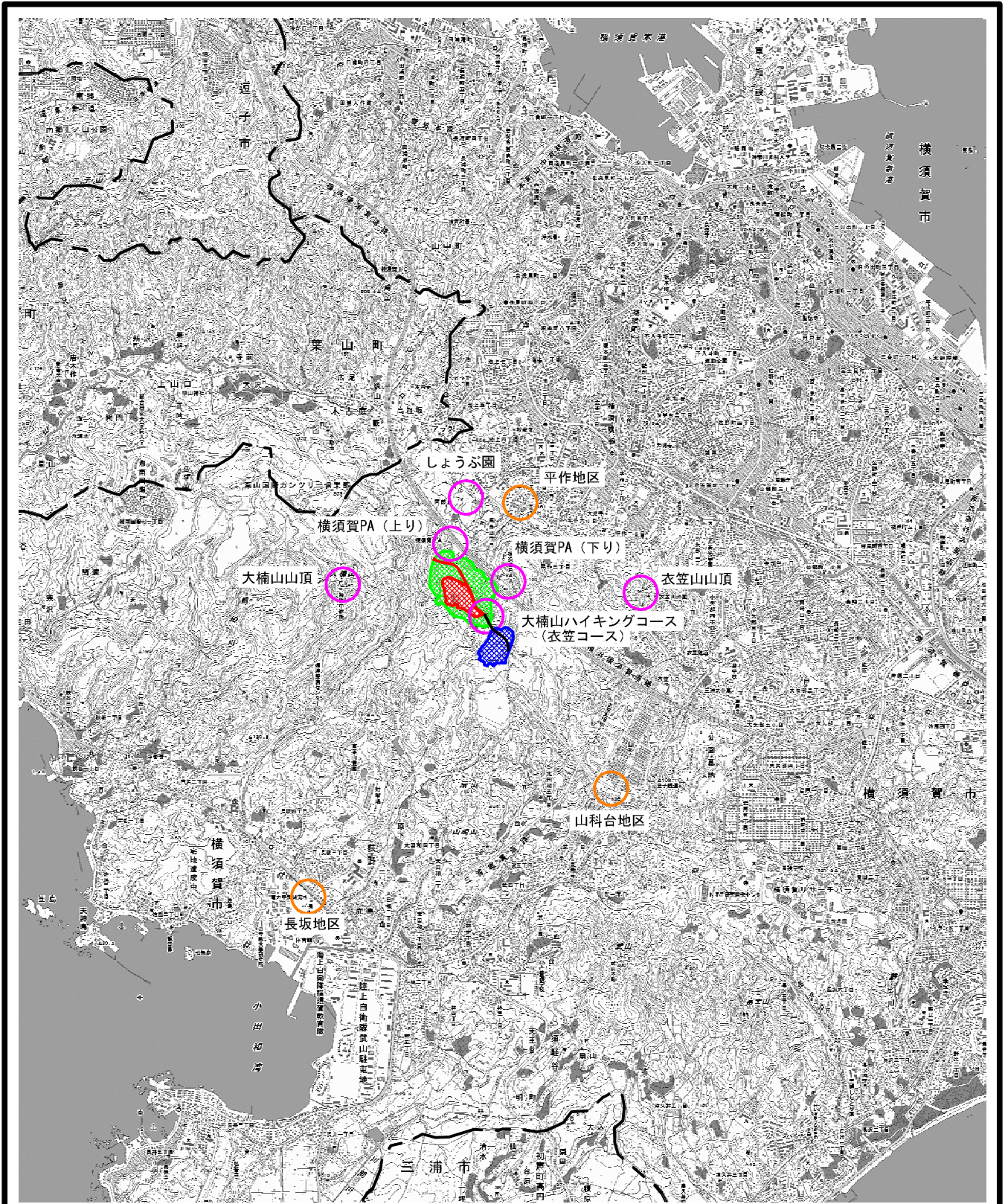


表 4-3-27 調査方法・調査時期等の調査計画等（景観：調査）


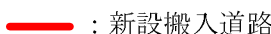






調 査		
調 査 事 項	調 査 の 方 法 等	
主要な眺望地点及び主要で身近な視点の状況	既存資料調査	実施区域周辺の主要な眺望地点及び主要で身近な視点の位置、種類及び利用状況並びにそれぞれの主要な眺望地点及び主要で身近な視点からの景観の構成要素、可視領域等の状況を地形図等の既存資料により把握し、必要に応じて現地踏査により確認する。
景観資源の状況	既存資料調査	実施区域周辺における景観資源の状況及びこれらにより形成される地域景観の特性を観光ガイドブック等の最新の既存資料により把握し、必要に応じて現地踏査により確認する。
主要な眺望景観及び身近な景観の状況	現地調査	<p>主要な眺望地点及び主要で身近な視点から見える景観資源の状況について、現地調査により把握する。</p> <p>&lt;調査地点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・景観が変化すると想定される主要な眺望地点、身近な視点(図4-3-8参照)。</li> </ul> <p>&lt;調査期間、回数&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・季節の変化及び観光シーズン等を考慮して、春、秋の2回とする。</li> </ul> <p>&lt;調査方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真撮影等による。</li> </ul>
対象事業の計画の状況	既存資料調査	三種の対象事業における事業計画等により、土地の形質の変更行為後の状態、工作物の位置、規模、構造、形態、色彩等の計画を把握する。

表 4-3-28(1/3) 調査方法・調査時期等の調査計画等（景観：予測）

予 測				
区分	時期	環境影響要因	予測事項	予 測 の 手 法
廃棄物処理施設の建設	搬入道路の新設及び既設道路の改修	1 建設工事	<p>・主要な眺望地点及び主要で身近な視点からの景観の変化の状況</p>	<p>&lt;予測時期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建設工事中の適切な時点とする。</li> </ul> <p>&lt;予測地点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地調査を行った主要な眺望地点及び身近な視点の中から、景観の変化を的確に把握できる数地点とする。</li> </ul> <p>&lt;予測方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フォトモンタージュを作成する方法により予測する。</li> </ul>
		4 道路の存在		<p>&lt;予測時期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建設が完了した時点とする。</li> </ul> <p>&lt;予測地点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地調査を行った主要な眺望地点及び身近な視点の中から、景観の変化を的確に把握できる数地点とする。</li> </ul> <p>&lt;予測方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フォトモンタージュを作成する方法により予測する。</li> </ul>
	土地又は供用物の存在	10 施設の使用	<p>・主要な眺望地点及び主要で身近な視点からの景観の変化の状況</p>	<p>&lt;予測時期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建設が完了した時点とする。</li> </ul> <p>&lt;予測地点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地調査を行った主要な眺望地点及び身近な視点の中から、景観の変化を的確に把握できる数地点とする。</li> </ul> <p>&lt;予測方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フォトモンタージュを作成する方法により予測する。</li> </ul>



凡 例

- |   |   |
|---|---|
|  : 廃棄物処理施設<br>(宅地の造成を含む) |  : 新設搬入道路              |
|  : 宅地の造成<br>(残置森林(最大範囲)) |  : 既設改修道路              |
|  : 発生土処分場                |  : 景観調査地点<br>(主要な眺望地点) |
|  : 市町界                   |  : 景観調査地点<br>(身近な視点)   |

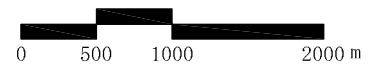


図4-3-8 景観調査地点

注) 宅地の造成(残置森林(最大範囲))には、搬入道路の新設、既設道路の改修に伴い形成される法面等を含んでいる。

表 4-3-28(2/3) 調査方法・調査時期等の調査計画等（景観：予測）

予 測				
区分	時期	環境影響要因	予測事項	予 測 の 手 法
発生土処分場の建設	土地又は び工 供用 物の 存在 及	16 発生土処分場の 存在	・主要な眺望地点 及び主要で身近 な視点からの景 観の変化の状況	<予測時期> ・建設が完了した時点とする。 <予測地点> ・現地調査を行った主要な眺望地点及び身近な視点の中から、景観の変化を 的確に把握できる数地点とする。 <予測方法> ・フォトモンタージュを作成する方法により予測する。

表 4-3-28(3/3) 調査方法・調査時期等の調査計画等（景観：予測）

予 測				
区分	時期	環境影響要因	予測事項	予 測 の 手 法
宅地の造成	工事の 実施	17 造成工事	・主要な眺望地点 及び主要で身近 な視点からの景 観の変化の状況	<予測時期> ・建設工事中の適切な時点とする。 <予測地点> ・現地調査を行った主要な眺望地点及び身近な視点の中から、景観の変化を 的確に把握できる数地点とする。 <予測方法> ・フォトモンタージュを作成する方法により予測する。
	土地又は び工 供用 物の 存在 及	21 宅地の形成	・主要な眺望地点 及び主要で身近 な視点からの景 観の変化の状況	<予測時期> ・建設が完了した時点とする。 <予測地点> ・現地調査を行った主要な眺望地点及び身近な視点の中から、景観の変化を 的確に把握できる数地点とする。 <予測方法> ・フォトモンタージュを作成する方法により予測する。

注：複合影響について

予測は、それぞれの対象事業において、時期、環境影響要因ごとに実施するものであるが、予測時期、予測地点によっては、三種の対象事業の複合影響についての予測が必要となる場合が考えられる。この場合、予測事項、予測方法をそれぞれの環境影響要因に準じて予測するものとする。

(空白)



表 4-3-29 調査方法・調査時期等の調査計画等（レクリエーション：調査）

調 査		
調 査 事 項	調 査 の 方 法 等	
レクリエーションの資源の状況	既存資料調査	<p>実施区域周辺におけるレクリエーション資源の位置、種類、規模、特性等の状況、利用状況、周辺の状況を地形図、観光ガイドブック等の既存資料により把握し、必要に応じて現地踏査及び管理者への聞き取りにより確認する。</p> <p>&lt;調査時期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レクリエーション資源の特性を踏まえて必要な情報を適切かつ効果的に把握できる時期、期間、又は時間帯とする。</li> </ul> <p>&lt;調査地域&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レクリエーション資源の特性を踏まえて対象事業によりレクリエーション資源が影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。</li> </ul> <p>&lt;調査地点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レクリエーション資源の特性を踏まえて調査地域におけるレクリエーション資源に係る影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とする。</li> </ul>
対象事業の計画の状況	既存資料調査	<p>三種の対象事業における工事計画、事業計画等により、工事中における工事車両の台数、運行経路、工作物の位置、規模、構造、施工方法、施設稼働時の関係車両の種類、台数等を把握する。</p>

表 4-3-30(1/3) 調査方法・調査時期等の調査計画等（レクリエーション：予測）

予 測				
区分	時期	環境影響要因	予 測 事 項	予 測 の 手 法
廃棄物処理施設の建設	搬入道路の新設及び既設道路の改修	1 建設工事	・レクリエーション資源の変化の状況	<p>&lt;予測時期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レクリエーション資源への影響が最大となる時期とする。</li> </ul> <p>&lt;予測地点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>予測地域における影響を適切に把握できる地点とする。</li> </ul> <p>&lt;予測方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対象事業の計画内容、周辺の土地利用の状況、環境保全対策等をふまえ、類似事例等を参考として予測する。</li> </ul>
		3 資材運搬車両等の走行		<p>&lt;予測時期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レクリエーション資源への影響が最大となる時期とする。</li> </ul> <p>&lt;予測地点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>予測地域における影響を適切に把握できる地点とする。</li> </ul> <p>&lt;予測方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対象事業の計画内容、周辺の土地利用の状況、環境保全対策等をふまえ、類似事例等を参考として予測する。</li> </ul>
	工事の実施	5 建設工事	・レクリエーション資源の変化の状況	<p>&lt;予測時期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レクリエーション資源への影響が最大となる時期とする。</li> </ul> <p>&lt;予測地点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>予測地域における影響を適切に把握できる地点とする。</li> </ul> <p>&lt;予測方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対象事業の計画内容、周辺の土地利用の状況、環境保全対策等をふまえ、類似事例等を参考として予測する。</li> </ul>
		7 資材運搬車両等の走行		<p>&lt;予測時期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レクリエーション資源への影響が最大となる時期とする。</li> </ul> <p>&lt;予測地点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>予測地域における影響を適切に把握できる地点とする。</li> </ul> <p>&lt;予測方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対象事業の計画内容、周辺の土地利用の状況、環境保全対策等をふまえ、類似事例等を参考として予測する。</li> </ul>
	土地又は及び工作物の存在	9 関係車両の走行	・レクリエーション資源の変化の状況	<p>&lt;予測時期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設の稼働が定常の状態となる第1段階（既設道路の改修完了前）及び第2段階（既設道路の改修完了後）の2時期とする。</li> </ul> <p>&lt;予測地点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>予測地域における影響を適切に把握できる地点とする。</li> </ul> <p>&lt;予測方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対象事業の計画内容、周辺の土地利用の状況、環境保全対策等をふまえ、類似事例等を参考として予測する。</li> </ul>

表 4-3-30(2/3) 調査方法・調査時期等の調査計画等（レクリエーション：予測）

		予 測		
区分	時期	環境影響要因	予測事項	予 測 の 手 法
発生土処分場の建設	工事の実施	13 資材運搬車両等の走行	・レクリエーション資源の変化の状況	<予測時期> ・レクリエーション資源への影響が最大となる時期とする。 <予測地点> ・予測地域における影響を適切に把握できる地点とする。 <予測方法> ・対象事業の計画内容、周辺の土地利用の状況、環境保全対策等をふまえ、類似事例等を参考として予測する。
	土存在又は及び工供作物の	15 土砂運搬車両等の走行	・レクリエーション資源の変化の状況	<予測時期> ・レクリエーション資源への影響が最大となる時期とする。 <予測地点> ・予測地域における影響を適切に把握できる地点とする。 <予測方法> ・対象事業の計画内容、周辺の土地利用の状況、環境保全対策等をふまえ、類似事例等を参考として予測する。

表 4-3-30(3/3) 調査方法・調査時期等の調査計画等（レクリエーション：予測）

		予 測		
区分	時期	環境影響要因	予測事項	予 測 の 手 法
宅地の造成	工事の実施	17 造成工事	・レクリエーション資源の変化の状況	<予測時期> ・レクリエーション資源への影響が最大となる時期とする。 <予測地点> ・予測地域における影響を適切に把握できる地点とする。 <予測方法> ・対象事業の計画内容、周辺の土地利用の状況、環境保全対策等をふまえ、類似事例等を参考として予測する。
		20 資材運搬車両等の走行		<予測時期> ・レクリエーション資源への影響が最大となる時期とする。 <予測地点> ・予測地域における影響を適切に把握できる地点とする。 <予測方法> ・対象事業の計画内容、周辺の土地利用の状況、環境保全対策等をふまえ、類似事例等を参考として予測する。
	土存在又は及び工供作物の	21 宅地の形成	・レクリエーション資源の変化の状況	<予測時期> ・レクリエーション資源への影響が最大となる時期とする。 <予測地点> ・予測地域における影響を適切に把握できる地点とする。 <予測方法> ・対象事業の計画内容、周辺の土地利用の状況、環境保全対策等をふまえ、類似事例等を参考として予測する。

注：複合影響について

予測は、それぞれの対象事業において、時期、環境影響要因、予測事項ごとに実施するものであるが、工事工程、資材運搬車両等の走行台数等から、三種の対象事業を通じて影響が最大となる時期を設定し、必要な場合、その複合影響について予測する。なお、この場合の予測事項、予測範囲、予測方法は、それぞれの環境影響要因に準じるものとする。

表 4-3-31 調査方法・調査時期等の調査計画等（温室効果ガス：調査）

調 査		
調 査 事 項	調 査 の 方 法 等	
対策の実施状況	既存資料調査	温室効果ガスの排出又は使用を回避し、若しくは低減するための対策又はエネルギーの使用量を削減するための対策の内容、効果等について同種の事業の状況を調査する。
地域内のエネルギー資源の状況	既存資料調査	実施区域周辺における地域冷暖房事業等の位置、供給範囲、熱源、供給能力等を既存資料により把握する。
伐採する樹木の状況等	既存資料調査	伐採する樹木の内容、面積を植物調査（緑の量）結果より把握する。
法令等による基準等	既存資料調査	対象事業に係る法令による基準等を把握する。
対象事業の計画の状況	既存資料調査	三種の対象事業における工事計画、事業計画等により、土地の形質の変更範囲、伐採木の量、処理方法、工事中の建設機械の種類、台数、施工方法、資材運搬車両等の種類、台数、運行経路、施設稼働時の温室効果ガスを排出する施設等の計画、関係車両、土砂運搬車両、敷均し機械等の種類、台数、温室効果ガスの排出等の係数等を把握する。

表 4-3-32(1/3) 調査方法・調査時期等の調査計画等（温室効果ガス：予測）

予 測						
区分	時期	環境影響要因	予 測 事 項	予 測 の 手 法		
廃棄物処理施設の建設	搬入道路の新設及び既設道路の改修	1	建設工事	・温室効果ガスの吸収量の状況	<予測時期> ・建設工事完了後の適切な時期とする。 <予測範囲> ・実施区域とする。 <予測方法> ・温室効果ガスの吸収係数を基に算出する方法 ・類似事例を参考にする方法 上記方法及び環境保全対策等の事業計画の内容に基づき予測する。	
		2	建設機械の稼働	・温室効果ガスの排出量の状況	<予測時期> ・工事期間中全体とする。 <予測範囲> ・実施区域とする。 <予測方法> ・エネルギーの使用量の係数を基に算出する方法 ・類似事例を参考にする方法 上記方法及び環境保全対策等の事業計画の内容に基づき予測する。	
		3	資材運搬車両等の走行		<予測時期> ・工事期間中全体とする。 <予測範囲> ・適切な走行距離及びその範囲を設定する。 <予測方法> ・エネルギーの使用量の係数を基に算出する方法 ・類似事例を参考にする方法 上記方法及び環境保全対策等の事業計画の内容に基づき予測する。	
	工事の実施		6	建設機械の稼働	・温室効果ガスの排出量の状況	<予測時期> ・工事期間中全体とする。 <予測範囲> ・実施区域とする。 <予測方法> ・エネルギーの使用量の係数を基に算出する方法 ・類似事例を参考にする方法 上記方法及び環境保全対策等の事業計画の内容に基づき予測する。
			7	資材運搬車両等の走行		<予測時期> ・工事期間中全体とする。 <予測範囲> ・適切な走行距離及びその範囲を設定する。 <予測方法> ・エネルギーの使用量の係数を基に算出する方法 ・類似事例を参考にする方法 上記方法及び環境保全対策等の事業計画の内容に基づき予測する。

表 4-3-32(1/3) 調査方法・調査時期等の調査計画等（温室効果ガス：予測） つづき

予 測		予 測		
区分	時期	環境影響要因	予測事項	予 測 の 手 法
廃棄物処理施設の建設	土地又は工作物の存在及び供用	8	廃棄物処理施設の稼働 ・温室効果ガスの排出量の状況	<予測時期> ・施設の稼働が定常の状態となる時期とする。 <予測範囲> ・実施区域とする。 <予測方法> ・温室効果ガスの排出等の量、エネルギーの使用量の係数を基に算出する方法 ・類似事例を参考にする方法 上記方法及び環境保全対策等の事業計画の内容に基づき予測する。
		9	関係車両の走行	<予測時期> ・施設の稼働が定常の状態となる時期（既設道路の改修完了後）とする。 <予測範囲> ・適切な走行距離及びその範囲を設定する。 <予測方法> ・エネルギーの使用量の係数を基に算出する方法 ・類似事例を参考にする方法 上記方法及び環境保全対策等の事業計画の内容に基づき予測する。

表 4-3-32(2/3) 調査方法・調査時期等の調査計画等（温室効果ガス：予測）

予 測		予 測		
区分	時期	環境影響要因	予測事項	予 測 の 手 法
発生土処分場の建設	工事の実施	11	建設工事 ・温室効果ガスの吸収量の状況	<予測時期> ・建設工事完了後の適切な時期とする。 <予測範囲> ・実施区域とする。 <予測方法> ・温室効果ガスの吸収係数を基に算出する方法 ・類似事例を参考にする方法 上記方法及び環境保全対策等の事業計画の内容に基づき予測する。
		12	建設機械の稼働 ・温室効果ガスの排出量の状況	<予測時期> ・工事期間中全体とする。 <予測範囲> ・実施区域とする。 <予測方法> ・エネルギーの使用量の係数を基に算出する方法 ・類似事例を参考にする方法 上記方法及び環境保全対策等の事業計画の内容に基づき予測する。
		13	資材運搬車両等の走行	<予測時期> ・工事期間中全体とする。 <予測範囲> ・適切な走行距離及びその範囲を設定する。 <予測方法> ・エネルギーの使用量の係数を基に算出する方法 ・類似事例を参考にする方法 上記方法及び環境保全対策等の事業計画の内容に基づき予測する。
	土地又は工作物の存在及び供用	14	敷均し機械等の稼働 ・温室効果ガスの排出量の状況	<予測時期> ・残土の埋立期間中全体とする。 <予測範囲> ・実施区域とする。 <予測方法> ・エネルギーの使用量の係数を基に算出する方法 ・類似事例を参考にする方法 上記方法及び環境保全対策等の事業計画の内容に基づき予測する。
		15	土砂運搬車両の走行	<予測時期> ・残土の埋立期間中全体とする。 <予測範囲> ・適切な走行距離及びその範囲を設定する。 <予測方法> ・エネルギーの使用量の係数を基に算出する方法 ・類似事例を参考にする方法 上記方法及び環境保全対策等の事業計画の内容に基づき予測する。

表 4-3-32(3/3) 調査方法・調査時期等の調査計画等（温室効果ガス：予測）

区分		時期		予 測	
区分	時期	環境影響要因	予測事項	予 測 の 手 法	
宅地の造成	工事の実施	17 造成工事	・温室効果ガスの吸収量の状況	<予測時期> ・建設工事完了後の適切な時期とする。 <予測範囲> ・実施区域とする。 <予測方法> ・温室効果ガスの吸収係数を基に算出する方法 ・類似事例を参考にする方法 上記方法及び環境保全対策等の事業計画の内容に基づき予測する。	
		18 既存施設の解体	・温室効果ガスの排出量の状況	<予測時期> ・工事期間中全体とする。 <予測範囲> ・実施区域とする。 <予測方法> ・エネルギーの使用量の係数を基に算出する方法 ・類似事例を参考にする方法 上記方法及び環境保全対策等の事業計画の内容に基づき予測する。	
		19 建設機械の稼働		<予測時期> ・工事期間中全体とする。 <予測範囲> ・実施区域とする。 <予測方法> ・エネルギーの使用量の係数を基に算出する方法 ・類似事例を参考にする方法 上記方法及び環境保全対策等の事業計画の内容に基づき予測する。	
		20 資材運搬車両等の走行		<予測時期> ・工事期間中全体とする。 <予測範囲> ・適切な走行距離及びその範囲を設定する。 <予測方法> ・エネルギーの使用量の係数を基に算出する方法 ・類似事例を参考にする方法 上記方法及び環境保全対策等の事業計画の内容に基づき予測する。	



表 4-3-33 調査方法・調査時期等の調査計画等（安全（危険物等）：調査）

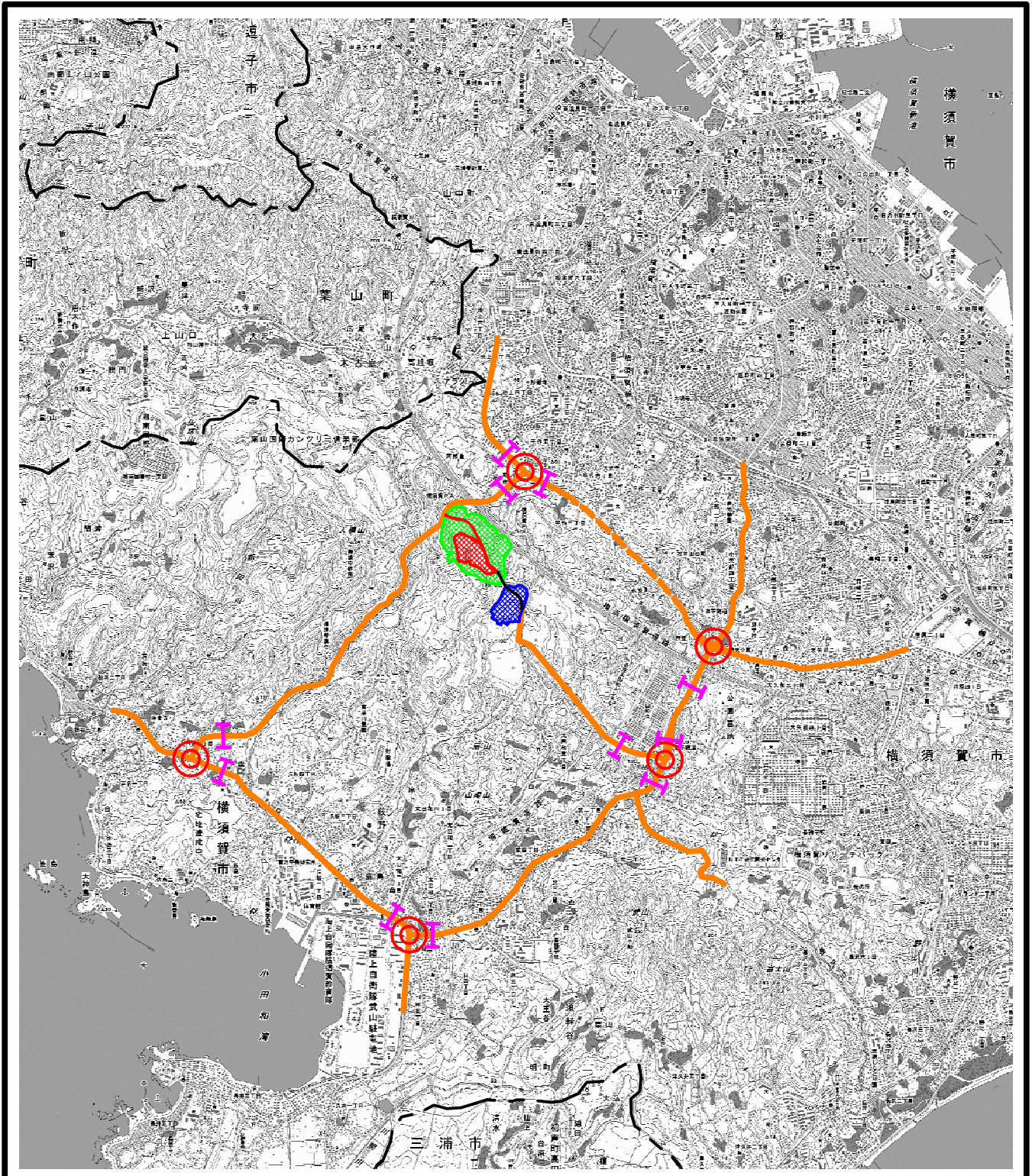
調 査		
調 査 事 項	調 査 の 方 法 等	
規制基準の状況	既存資料調査	対象事業に係る遵守すべき消防法等個別法の技術基準、市町村及び県の定める基準等を把握する。
類似施設の状況	既存資料調査	類似施設の供用の実績等の状況及び事故、トラブルの状況を既存資料により把握する。
土地利用の状況	既存資料調査	学校、病院、劇場、住宅等の保安物件の分布状況、用途地域の指定状況その他の土地利用の状況を地形図、都市計画図、土地利用現況図等の既存資料により把握し、必要に応じて現地踏査により確認する。
気象の状況 ・風向、風速	既存資料調査	下記資料等を調査し、最新の1年間の状況を把握するとともに当該年が気象的に異常でなかったかを確認する。 ・常時監視測定局の1時間値（電子データ） <調査地点> ・横須賀市役所測定局他（常時監視測定局、図4-3-2(p. 4-44)参照） ・横浜地方気象台
地形及び工作物の状況	既存資料調査	危険物等による火災、爆発等及び危険物等の漏洩に伴う拡散に影響を及ぼす地形及び工作物の位置、規模等を地形図等の既存資料により把握し、必要に応じて現地踏査により確認する。
対象事業の計画の状況	既存資料調査	対象事業（廃棄物処理施設の建設）における事業計画等により、取扱う危険物等の種類、特性、量、危険物等を取扱う施設に使用する材料、施設の構造、耐震性能、施設の災害予防、災害拡大防止のための設備、措置等を把握する。

表 4-3-34 調査方法・調査時期等の調査計画等（安全（危険物等）：予測）











予 測				
区分	時期	環境影響要因	予測事項	予 測 の 手 法
廃棄物処理施設の建設	土地又は工作物の存在及び供	8 廃棄物処理施設の稼働	・危険物等の火災、爆発及び漏洩に係る安全	<予測時期> ・施設の稼働が定常の状態となる時期とする。 <予測範囲> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・環境保全対策等の事業計画の内容を明らかにするとともに、類似事例等を参照して予測する。

表 4-3-35 調査方法・調査時期等の調査計画等（安全（交通）：調査）

調 査		
調 査 事 項	調 査 の 方 法 等	
道路等の状況  ・実施区域に関連性の高い 国道、県道及び市町村道 の整備の状況 ・関連する交通計画の状況 ・道路の種類、幅員構成 ・道路の性格 ・交差点の位置、構造、信 号制御方法 ・通学路の状況、通学時間	既存資料調査	神奈川県道路地図、都市計画図等の既存資料により把握し、必要に応じて関係機 関への聞き取り及び現地踏査により確認する。
交通量の状況  ・自動車交通量 ・歩行者等交通量 ・信号現示	既存資料調査	実施区域周辺の交通量を、道路交通センサス等の既存資料により把握する。
	現地調査	<調査地点> ・自動車交通量、信号現示：関係車両主要走行ルート上の5交差点 (図4-3-9参照) ・歩行者等交通量：関係車両主要走行ルート沿道の11断面(図4-3-9参照) <調査期間、回数> ・交通の状況を適切に把握できる平日の1日間とする。 自動車交通量：24時間 歩行者等交通量：12時間(7時～19時) 信号現示：12時間(7時～19時)内で適宜 <調査方法> ・自動車交通量、歩行者交通量：カウンターにより計測調査する。 ・信号現示：ストップウォッチにより調査する。
交通安全施設、 交通安全対策等の状況  ・交通安全施設の設置状況 ・交通事故の状況 ・道路管理者による交通安 全対策の状況 ・自治会、学校等による学 童の誘導等の状況	既存資料	既存資料により把握し、必要に応じて関係機関への聞き取り及び現地踏査により 確認する。
対象事業の計画の状況	既存資料調査	三種の対象事業における工事計画、事業計画等により、工事中の資材運搬車両等 の種類、台数、運行経路、供用時の関係車両、土砂運搬車両の種類、台数等を把握 する。



凡 例

- |   |  |
|---|--|
|  : 廃棄物処理施設<br>(宅地の造成を含む)   |  : 新設搬入道路           |
|  : 宅地の造成<br>(残置森林(最大範囲))   |  : 既設改修道路           |
|  : 発生土処分場  |  : 交通量(自動車)<br>調査地点 |
|  : 市町界   |  : 歩行者等交通量          |
|  : 関係車両主要走行ルート<br>(  は計画) |  |

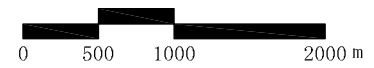


図4-3-9 安全(交通)調査地点

注) 宅地の造成(残置森林(最大範囲))には、搬入道路の新設、既設道路の改修に伴い形成される法面等を含んでいる。

表 4-3-36(1/3) 調査方法・調査時期等の調査計画等（安全（交通）：予測）

予 測		予 測		
区分	時期	環境影響要因	予測事項	予 測 の 手 法
廃棄物処理施設の建設	搬入道路の新設及び既設道	3 資材運搬車両等の走行	・交通安全の変化の状況 (交通混雑の状況、交通安全の状況)	<予測時期> ・資材運搬車両等の走行による周辺の交通への影響が最大となる時期とする。 <予測地点> ・交通混雑：資材運搬車両等の主要走行ルート上の代表地点とする。 ・交通安全：実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・交通混雑：資材運搬車両等が道路の交通量に占める割合や、主要交差点の交差点需要率を求めることにより予測する。 ・交通安全：対象事業の計画の状況、交通安全対策、対象道路の状況等を考慮して予測する。
	工事の実施	7 資材運搬車両等の走行	・交通安全の変化の状況 (交通混雑の状況、交通安全の状況)	<予測時期> ・資材運搬車両等の走行による周辺の交通への影響が最大となる時期とする。 <予測地点> ・交通混雑：資材運搬車両等の主要走行ルート上の代表地点とする。 ・交通安全：実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・交通混雑：資材運搬車両等が道路の交通量に占める割合や、主要交差点の交差点需要率を求めることにより予測する。 ・交通安全：対象事業の計画の状況、交通安全対策、対象道路の状況等を考慮して予測する。
	土地又は工作物の存在及び供用	9 関係車両の走行	・交通安全の変化の状況 (交通混雑の状況、交通安全の状況)	<予測時期> ・施設の稼働が定常の状態となる第1段階（既設道路の改修完了前）及び第2段階（既設道路の改修完了後）の2時期とする。 <予測地点> ・交通混雑：関係車両の主要走行ルート上の代表地点とする。 ・交通安全：実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・交通混雑：関係車両が道路の交通量に占める割合や、主要交差点の交差点需要率を求めることにより予測する。 ・交通安全：対象事業の計画の状況、交通安全対策、対象道路の状況等を考慮して予測する。

表 4-3-36(2/3) 調査方法・調査時期等の調査計画等（安全（交通）：予測）

予 測		予 測		
区分	時期	環境影響要因	予測事項	予 測 の 手 法
発生土処分場の建設	工事の実施	13 資材運搬車両等の走行	・交通安全の変化の状況 (交通混雑の状況、交通安全の状況)	<予測時期> ・資材運搬車両等の走行による周辺の交通への影響が最大となる時期とする。 <予測地点> ・交通混雑：資材運搬車両等の主要走行ルート上の代表地点とする。 ・交通安全：実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・交通混雑：資材運搬車両等が道路の交通量に占める割合や、主要交差点の交差点需要率を求めることにより予測する。 ・交通安全：対象事業の計画の状況、交通安全対策、対象道路の状況等を考慮して予測する。
	土地又は工作物の存在及び供用	15 土砂運搬車両等の走行	・交通安全の変化の状況 (交通混雑の状況、交通安全の状況)	<予測時期> ・土砂運搬車両の走行による周辺の交通への影響が最大となる時期とする。 <予測地点> ・交通混雑：土砂運搬車両主要走行ルート上の代表地点とする。 ・交通安全：実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・交通混雑：土砂運搬車両が道路の交通量に占める割合や、主要交差点の交差点需要率を求めることにより予測する。 ・交通安全：対象事業の計画の状況、交通安全対策、対象道路の状況等を考慮して予測する。

表 4-3-36 (3/3) 調査方法・調査時期等の調査計画等（安全（交通）：予測）

予 測				
区分	時期	環境影響要因	予測事項	予 測 の 手 法
宅地の造成	工事の実施	20 資材運搬車両等の走行	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全の変化の状況（交通混雑の状況、交通安全の状況）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;予測時期&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>資材運搬車両等の走行による周辺の交通への影響が最大となる時期とする。</li> </ul> </li> <li>&lt;予測地点&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>交通混雑：資材運搬車両等の主要走行ルート上の代表地点とする。</li> <li>交通安全：実施区域周辺地域とする。</li> </ul> </li> <li>&lt;予測方法&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>交通混雑：資材運搬車両等が道路の交通量に占める割合や、主要交差点の交差点需要率を求めることにより予測する。</li> <li>交通安全：対象事業の計画の状況、交通安全対策、対象道路の状況等を考慮して予測する。</li> </ul> </li> </ul>

注：複合影響について

予測は、それぞれの対象事業において、時期、環境影響要因、予測事項ごとに実施するものであるが、工事工程、建設機械等の種類、稼働台数、資材運搬車両等の走行台数等から、三種の対象事業を通じて環境負荷が最大となる時期を設定し、必要な場合、その複合影響について予測する。なお、この場合の予測事項、予測範囲、予測方法は、それぞれの環境影響要因に準じるものとする。